

グループベースの親の育児訓練プログラムによって、親が社会心理的に満足感を得ることは短期的に改善するが、効果は持続しない



育児訓練は、抑うつ、不安、ストレス、怒り、罪悪感、自信、パートナーの満足度において、短期間のプラスの効果をもたらす

このレビューの目的は？

このキャンベルの体系的レビューは、親の社会心理的精神健康状態に対するグループベースの育児プログラムの効果を考察している。このレビューは、米国、カナダ、オーストラリア、英国、中国、ドイツ、日本、ニュージーランド、オランダを含む様々な国と地域で実施された48の研究から得られた調査結果をまとめたものである。参加者は、日々子供の世話をする責任のある親たちであった。合計4,937名がこれらの研究に参加した。

育児プログラムは、子供の感情および行動の適応力に影響を与えることが示されている。このレビューは、親の社会心理的精神健康状態に及ぼす育児プログラムの効果について注目する。エビデンスは、短期間には社会心理的精神状態にプラスの効果を示すが、その効果は持続しないことを示している。時間が経過しても、改善した親の社会心理的精神状態が維持されることを確実にするために、さまざまなプログラムの有効性を検証するためには、より多くの研究が必要である。

このレビューはなにを調査したか？

親の社会心理的精神健康状態は、親子関係に大きな影響を及ぼし、将来、子供の社会心理的精神健康状態にも大いに影響する可能性がある。そのため、育児プログラムは、子どもへの効果を通して直接的に、そして親への効果を通じて間接的に、子供の感情および行動の適応力に影響する。

このレビューは、不安、抑うつ、罪悪感、自信などの親の社会心理的精神健康状態に及ぼすグループベースの育児プログラムの効果を考察している。

どんな研究が含まれていたか？

含まれている研究では、3つのタイプのプログラムの結果が報告されている：それらは、行動、認知行動および多モードで、それらは子育てプログラムを対照条件（待機リスト、治療なし、通常治療、またはプラセボ対照群）と比較したランダム化比較試験を用いた。それらの研究では少なくとも1つ、親の社会心理的精神健康状態を測定したものを使用しなければならなかった。十代で子育てをしている親、また、精神障害と診断された親を対象とする研究は除外された。

最終評価では、4,937人の参加者からなる合計48の研究が含まれていた。この調査は、米国、カナダ、オーストラリア、英国、中国、ドイツ、日本、ニュージーランド、オランダを含む幅広い地域で実施された。



このレビューはどれくらい最新のものか？

レビュー著者は、2011年12月までに発表された研究を検索した。このCampbell Systematic Reviewは2012年9月に出版された。

キャンベルコラボレーションとはなにか？

キャンベルコラボレーションとは、体系的なレビューを出版する、国際的、自発的、非営利の研究ネットワークである。私たちは、社会科学および行動科学のプログラムに関して、それらがどれだけ立証できるかその質を評価したり、要約をおこなったりしている。私たちの目標は、人々がより良い選択をし、より良い政策決定を促進することである。

この要約について

この要約は、Jane Barlow, Nadja Smailagic, Nick Huband, Verena Roloff と Cathy Bennett (DOI 10.4073/csr.2012.15) 著、Campbell Systematic Review 2012:15 Group-based parent training programmes for improving parental psychosocial health キャンベル体系的レビュー 2012:15 「親の社会心理的精神健康状態を改善するためのグループベースの親の育児訓練プログラム」に基づいて、Ada ChukwudozieおよびHoward White (キャンベルコラボレーション) によって作成された。コピー編集とレイアウトはTanya Kristiansen (キャンベルコラボレーション) によって行われた。この要約プロジェクトのためのAmerican Institutes for Research による財政支援に深く感謝する。



調査された介入の大半 (36) は「標準的な」実施継続期間 (8~14セッション) であったが、10の介入は「短時間」 (1~6セッション) で、2つの介入は「長時間」 (16週間以上) であった。

このレビューから主にわかったことは？

親の育児訓練は、抑うつ、不安、ストレス、怒り、罪悪感、自信、パートナー満足度にプラスの短期間の効果をもたらす。自尊心に影響はなく、攻撃的行動や反対に作用した効果は報告されなかった。

しかし、6ヵ月後にはたった2つの結果 (ストレスと自信) のみにプラスの効果があり、1年後にはどのアウトカムに有意な影響はみられなかった。

父親に関するデータが限られているため、データは主に母親のものを参照している。父親に対して行われたメタ分析は1件のみであり、親がもつストレスが、短い間改善することに統計的に有意な結果を示している。

プログラムの種類や介入実施期間によって有意差は認められなかった。

このレビューからわかったことが意味することは？

このレビューで示された主な結果は、親の社会心理的幸福感を改善するために育児プログラムの利用が有効であることを裏付ける十分なエビデンスを示した。

しかし、改善が見られるのは短期間であることが判明したため、改善したことを維持するためには、親への追加サポートが必要となる可能性がある。したがって、異なるタイプのプログラムの有効性を比較したエビデンスに加えて、親の社会心理的機能において改善をもたらすようなプログラムのしくみを研究する必要がある。

さらに、利用可能な限られたエビデンスが示すには、育児プログラムが母親と同様、父親の社会心理的幸福感も改善できることを示唆している。したがって、父親のための育児プログラムの利点について明確に焦点を当てたさらなる研究が必要である。